

自主講座の方向性について 江有

現在、理互学部に於ける秩序は、すべて学校当局が集約している観があり又、我々自身がその秩序に乗、かり日常性の中に埋没していくという過程が10月、11月、12月を過る中起きている。この様な状況を自己批判的に見て、現在我々には何が欠けており、何を行う必要があるだろうか。

従来、我々は主体性の確立、あるいは自己の理論の構築を言、て来たが、しかしながらそれは、言葉の上の事ではなかった様に思われてならない。

これでは、なせこの様な事が起ったのだろうか。我々は人民解放、帝大解体を叫びながら、その事にかまけて、重大な、我々の人生に於いて人民解放という長く苦しい斗争を永続的に行ない得るかという自己への問いかけを投げ出したままにしておいたのではないだろうか。主として、

主体性を重んじると自から狂じていながら、自己の内面深くくい込む問いかけ、言葉を代えて言えば、アナル性をえぐり出す作業を行ない得ないまま、ずるずると我々の日常性の中へのめり込んでいってしまい、生活面についても、人生についても一番真面目でなければならぬはずの我々が、一番不真面目であつたのではないか。これこそが我々の重大な欠点であり又、犯罪であつたのだろうか。この様な欠点を取り除く方途は無いか？

以上の様な問いかけを行う中から、我々材料斗争委員会が自主講座という問題を提起した。この自主講座の方向性について若干語つておけば、まずもつて我々自身が時間的、空間的に埋没している学校当局の秩序から抜け出す必要がある。その為、自主講座に於いて、我々の時間をとりもどすこと、つまり、より果敢

的に言つておれば、4時まで授業があるから4時以後は我々の時間としていく。これを踏み台として理互を我々の秩序で、集約していくという事が追求されるであらう。これを自主講座のオ一の意義とするならオ二の意義は、我々のアナル性を打破していくという事にある。しかしこれは容易に打破され得るものではななく、今までより、より緻密な、地道な作業を行ない、かつその積みかさねによつて打破していく方向を見い出さねばならないだろう。我々は自主講座によつてすべてが解決されるとは思わない。むしろ解決される方向が見つかれば良いと考えている。希望はしないしかし、最大の努力をもつて、これに立ちむかつて行く。

我々材料斗争委員会は（私見が多分けて）以上のような自主講座を提起する。

自主講座日程表

水曜日

資本主義について
労働運動史

木曜日

革命前史

土曜日

日本の歴史
差別問題
日本大学生